

GPM 資格取得で身に付く力 社会の第一線で活躍する力を養う。



文部科学省 大学間連携共同教育推進事業「産学公連携によるグローバル人材の育成と地域資格制度の開発」



京都産業大学



京都光華女子大学



京都橘大学



京都文教大学



佛教大学



龍谷大学

お問合せ先

□資格発行団体

特定非営利活動法人グローバル人材開発センター

●事務局

〒602-8061 京都市上京区甲斐守町97番地西陣産業創造会館2階
TEL: 075-411-5010 FAX: 075-411-5011 Mail: info@globalcenter.jp

●Students Lab Office (学生活動拠点)

〒604-8006 京都市中京区下丸屋町390-2 QUESTION 5階
TEL: 070-5262-7066

□連携校

京都産業大学 法学部事務局

〒603-8555 京都市北区上賀茂本山
TEL: 075-705-1458 FAX: 075-705-1496
Mail: hougaku-jim@star.kyoto-su.ac.jp

京都光華女子大学 学生サポートセンター 修学担当

〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町38
TEL: 075-325-5307 FAX: 075-325-5317
Mail: kyomu@mail.koka.ac.jp

京都橘大学 社会・工学系学部グループ (社会・工学系事務課)

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町34
TEL: 075-574-4443
Mail: aca-se@tachibana-u.ac.jp

京都文教大学 社会連携部フィールドリサーチオフィス(FRO)

〒611-0041 京都府宇治市横島町千足80番地
TEL: 0774-25-2630 FAX: 0774-25-2822
Mail: fro@po.kbu.ac.jp

佛教大学 進路支援部資格課

〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96
TEL: 075-491-2141 FAX: 075-493-9032
Mail: shikaku-s@bukkyo-u.ac.jp

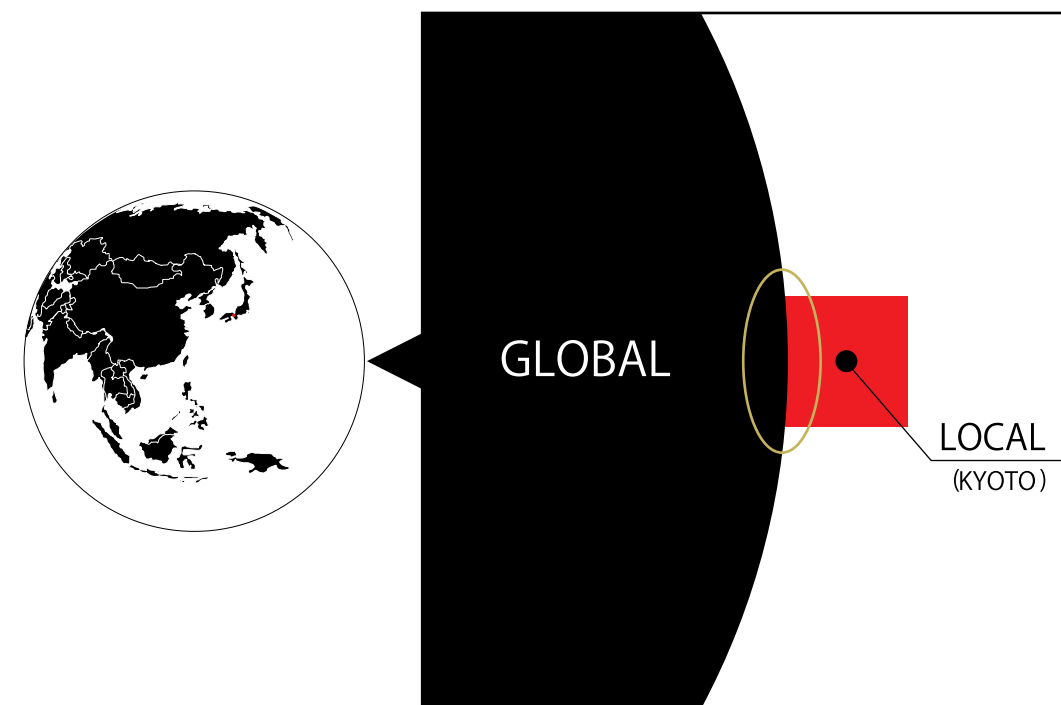
龍谷大学 政策学部教務課

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
TEL: 075-645-2285 FAX: 075-645-2101
Mail: seisaku@ad.ryukoku.ac.jp

グローバル人材資格制度

Glocal Project Manager

グローバル プロジェクト マネジャー
Since 2015



社会人になる前に、より実践へ



グローバル人材資格制度

資格名称：「グローバルプロジェクトマネージャー (GPM)」

Global
+
Local
↓
Glocal

About GPM

実践力を身に付ける職能資格。

グローバル人材資格 (GPM) はグローバルとローカルをかけあわせた「グローバル」をコンセプトとした職能資格です。

GPMは、企業活動のもつ社会的意義を理解し、プロジェクトを遂行する資質を有していることを証明する資格です。別の言い方をすれば、企業活動を理解するとともに、チームの一員として、主体的に他者とコミュニケーションを交わし、課題を発見し、具体的な解決に導いていく、その素質を備えていることの客観的な証明となります。

About「グローバル人材」

地域経済を支える中核的なビジネス人材

グローバル化が進む今日の企業社会は、広く世界に開かれた視野をもち、かつ主体的で実践的なものごとを進めていける人材を必要としています。グローバルな視点で物事を考える能力を兼ね備えつつ、地域経済・社会（ローカル）の持続的な発展に情熱を注ぐ人材の育成をめざします。

「グローバル」な京都

京都には、地域に根ざしながら世界的に活躍する先進的企業が集積しています。また、観光業はもとより、伝統産業から製造業、ベンチャー企業に至るまで、地域経済を支えるユニークな中堅・中小企業も多く存在します。さらに日本有数の大学の街でもあり、若者人口が多く、留学生も世界中から集まっています。京都はまさに「グローバル」(グローバル+ローカル)の代表といえます。



GPMへの思い

～社会の第一線で活躍できる資格を目指して～

日本はすでに成熟したマーケットを持つ先進国です。そして世界は完全にグローバル化し、ほぼすべての産業分野がきびしい競争社会に巻き込まれています。

もはや、形式的ルールにがんじがらめになり、定常状態を前提にしたような管理型組織では、日本の未来を切り拓いていくことは不可能です。「個」の力を徹底的に強めること、そこにしか解はありません。

しかしそれは、相手の視点に立って考える、自分が生きる社会との関わりを大切に、ということと矛盾するものではありません。「世界」と「私」のあいだには、国や地域社会といった一定のまとまりを持つ基盤があります。そこで培われてきた、文化、風土、こころ、技術は、他にはない特徴を生み、グローバルな競争環境を生き抜くためにも、大きな資産となるのです。

その意味で、日本社会はいま、「個の自立」「ローカルな共創」「グローバルな視野」への志向を、高いレベルであわせもつ人材を必要としています。これがグローバル人材です。GPMは、そのグローバル人材育成の体系的な教育プログラムを履修した証明となります。

これまで学生は、就活の場で、自らがアクティブであることを証明するツールを持っていませんでした。サークル経験やアルバイト経験を語ることがそれを代替していましたが、それらはほとんどの場合、他の人との差別化がむずかしく、大学教育の中の学びは企業にあまり考慮されない、という奇妙な状態が続いてきたのです。

GPMは大学教育の中から、その証明手段を提供します。GPMのプログラムの特徴は、基本科目の履修の上に、企業人とのワークショップ的科目や企業連携プロジェクトといった実践を組み込んでいることです。主体性や創造性、コミュニケーション力、グループワーク力、そしてなによりも行動力は、これまでの大学教育で中心的であった、座学だけで身につくものではありません。

GPMを取得する過程では、働くことについて深く考え、現場に行き、企業とのやりとりを重ねていくことになります。その中で、意図通りには行かず、何度も失敗し、挫折も味わうことでしょう。しかし、仕事の上では、「他者の視点取得」と「打たれ強さ」こそが、もっとも大切なメンタリティです。企業は、こうしたメンタリティをもつ学生を必ず待っています。

GPMは京都の産学公民「オール京都」で創り上げてきたものです。GPMを、企業とのプロジェクト経験を、面接の場でも大いに活用してください。

多くの学生のみなさんの挑戦を願っています。

文部科学省 大学間連携共同教育推進事業
「産学公連携によるグローバル人材の育成と地域資格制度の開発」

事業推進責任者 中谷真憲

GPM Merits 実践的な学びを修めた証明です。

Merit 1 学部生の中に取得できる資格

学部生の大半は企業に就職をします。その学部生を対象とし、学部で完結する人材育成、資格設計をどう描くべきか、という課題から「グローバル人材資格制度」の理念と構想は生まれました。

Merit 2 自分自身の成長に繋がる

GPMの科目群の中から、専門教育の他、コミュニケーションスキルやプレゼンテーションスキルのアップに繋がるようなアクティブラーニング科目を履修する必要があります。この学びにより実践力や課題解決力、コミュニケーション力、プレゼン力など実社会で役立つ力全般を培うことができます。

Merit 3 就職へのワンステップとして

GPMは、職場等におけるプロジェクトを遂行するうえで、グループリーダーとして、またはチームの一員として主体的に取り組み、課題の発見・解決に導いていくための必要な素養を身につけていることの客観的証明となり、就職活動においても自信を持ってアピールすることができます。なお、GPM取得者は、NPO法人グローバル人材開発センターに登録し、就職活動にあたって同センターの提供する企業との採用マッチングサービスを利用することができます。

初級地域公共政策士資格も取得できます。

「グローバル人材基本科目」の中から12ポイント（1科目1～2ポイント）、「グローバル人材PBL」で2ポイント（1科目2ポイント）、合計14ポイント取得するとGPMの資格が取得できます。まずは、「グローバル人材基本科目」を受講して下さい。3科目以上修了し、面談に合格すると「グローバル人材PBL」を受講する事ができます。

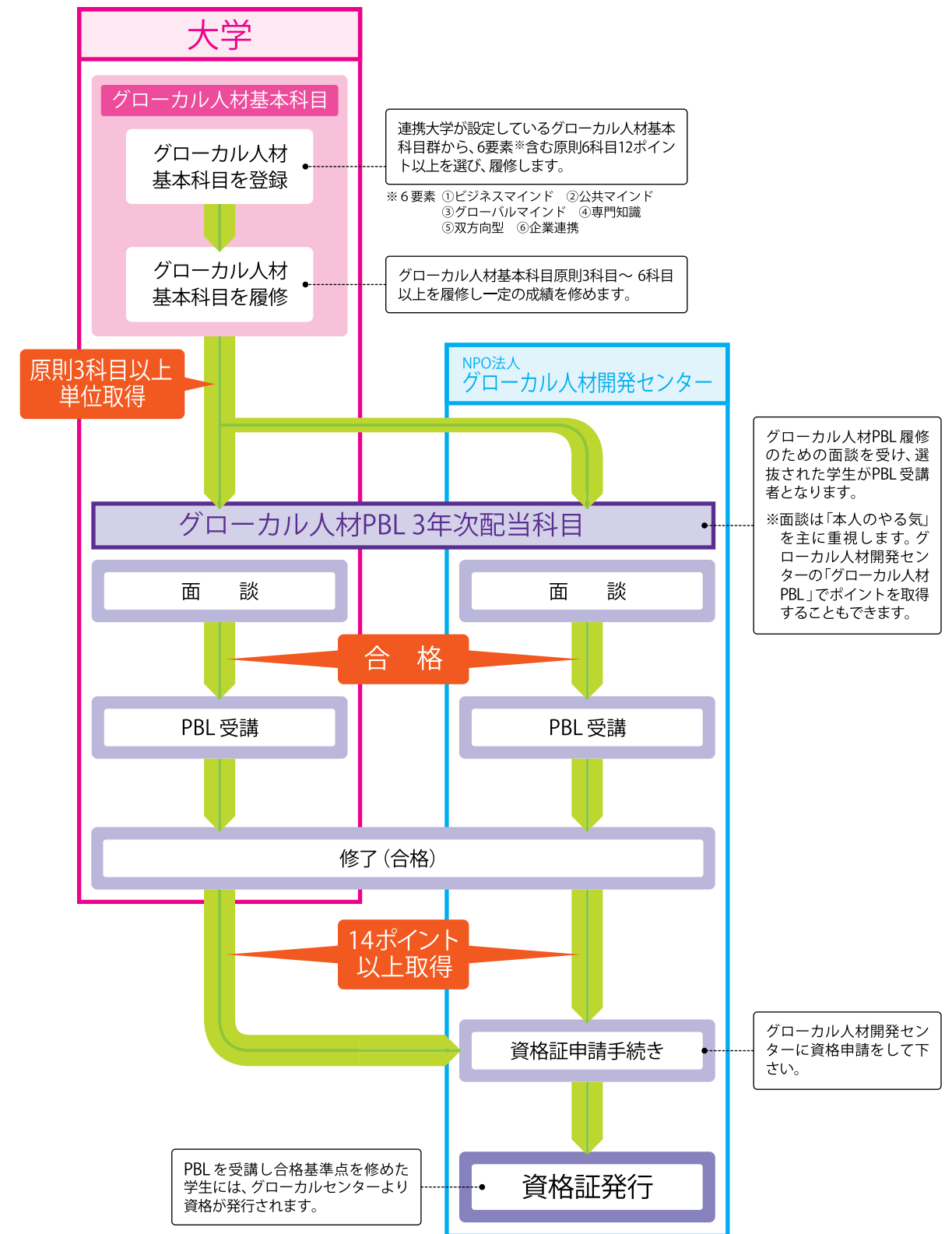
「グローバル人材基本科目」は、『初級地域公共政策士資格教育プログラム(グローバル人材プログラム)』を兼ねるため、GPMを取得することで、「初級地域公共政策士」資格も同時に取得する事ができます。

客観的な質保証

一般財団法人地域公共人材開発機構（COLPU）は、社会が求める教育・研修の質が実現されていることを確認するための認証・評価を行っています。本プログラムはCOLPUによる質保証のための社会的認証を受審したことで、質保証が担保されます。

また本資格は、欧州のEQFを参照し、レベル6（大学の学部修了程度を想定した資格教育プログラム）に設定されています。（EQFとはEuropean Qualifications Frameworkの略。EUでの職能教育で用いられる共通の枠組みです。）

「GPM取得までのフロー」



- ▶ 資格取得は単位数ではなく、ポイント数の合計が14を超えることが条件となります。
- ▶ 「グローバル人材基本科目」3科目以上の履修が、「グローバル人材PBL」履修条件です。未履修の科目は「グローバル人材PBL」と並行しての履修が可能です。
- ▶ 資格証の発行にかかる事務手数料については、グローバルセンターへお問い合わせください。
- ▶ ポイント数については、各校によって取扱いが違うことがあるので、各校のパンフレット等を参照してください。

文部科学省大学間連携共同教育推進事業

国公立の設置形態を超え、地域や分野に応じて大学間が相互に連携し、社会の要請に応える共同の教育・質保証システムの構築を行う取組の中から、優れた取組を選定し、重点的な財政支援を行うことにより、教育の質の保証と向上、強みを活かした機能別分化を推進することを目的としています。（文部科学省HPより抜粋）

本事業「産学公連携によるグローバル人材の育成と地域資格制度の開発」は、専門教育の実践的改革を通じて、グローバル人材を育成することを大きな目標として掲げ、京都産業大学を代表校に京都府立大学、京都文教大学、佛教大学、龍谷大学の5大学が連携して専門教育を本格的に社会化していくことを目指すものとして、平成24年度に採択されました。27年度に京都橘大学、令和4年度に京都光華女子大学がオブザーバー校として加わり、平成28年度までの文科省事業としての事業期間終了後も運営を継続しています。

連携大学によるGPMプログラム

当該資格に必要な要素を含み、大学独自の特色ある複数の科目群で体系的に構成されたプログラムです。その要素は各大学のカリキュラム内容を踏まえ、資格として厳正な共通基準をつくるために熟議を経て設計されたものであり、下記の6要素からなります。

内容要素(4種類)

- ビジネスマインド
- 公共マインド
- グローバルマインド
- 大学独自の要素

教育手法要素(2種類)

- 双方向型
- 企業連携

連携大学の学生は、在籍大学の科目群の中から原則6科目以上を履修する必要があります。
※科目群表は、各大学担当窓口にてお問い合わせください。



京都産業大学のみなさんへ

京都産業大学のプログラムの特色

2012年に文科省の大学間連携事業に選定されて以降、京都産業大学はGPM資格プログラムの主幹校として先頭を走り続けてきました。本学の特長は徹底した「実践重視」、「企業人との双方向のやりとり重視」の姿勢です。また法学部専門科目だけでなく、経済学部、経営学部、国際関係学部、共通教育の科目も配置しているため、所属学部を問わず挑戦しやすい設計となっています。特にグローバル人材論特殊講義とグローバル人材PBLを履修すれば、現実の企業活動について、そして「働く」として「世界」がどのようにつながっているかについて、圧倒的に理解が深まることと思います。

担当教員からのメッセージ 京都産業大学法学部教授 中谷 真憲

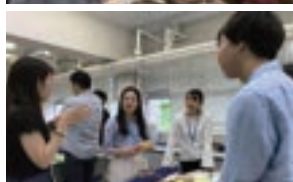
社会の側、企業の側は社会課題や社会ニーズをつかんで、事業アイデアに落とし込むことのできる人材を求めています。グローバル人材PBLは企業からテーマをもらうだけでなく、学生側からも見たい未来社会を考えながら逆提案をぶつけていく、といった方向に進化してきました。その分、かなりチャレンジングですし、企業の人事部や幹部と直接やりとりをして作りこんでいく面白さがあります。本学のプログラムには資格取得のイメージから想像しがたいほど他にはない自由度があります。ぜひ楽しんで受講してください。



特色ある科目：グローバル人材論特殊講義

グローバル人材論特殊講義は、大企業も含む企業トップや第一線の社会人が毎回のように来校して、学生たちとワークショップ的に議論を交わします。かたい講演のようなものではなく、失敗談も本音で話していただき、社会のあり方を学生とともに考える、自由な雰囲気にあふれた授業です。

毎年、講義が終わると何人も学生の「本当に面白かった」「人生にとって転機になった」と言いに来てくれます。実際、この授業を通じて企業を知り、就職していった学生もいます。ですが決して「就活塾」ではありません。現実の企業活動を知り、「働く」とことの苦しみも喜びも知り、また企業がどのような社会課題に込んでいるのかを、経営論やテクノロジー論、時に法政策論まで交えながら深く学んでいく、かなりレベルの高い授業です。楽しみながら力がつくならばそれが最高ですが、この授業はその場を提供します。



京都光華女子大学のみなさんへ

京都光華女子大学のプログラムの特色

京都光華女子大学では、建学の精神である仏教精神を基礎として、グローバルな視点を持ちながら地域社会の多様な課題に取り組んでいくプログラム構成となっています。基礎知識から実践的な科目までバランスよく開講され、学部を横断して多くの学生が履修できるよう授業が設定されています。そのため、各専門教育を活かしたGPMプログラムを受講することができます。

京都光華女子大学のGPMプログラム

社会課題を「私自身に関する問題を私たちの行動で変えられる」と私事としてとらえ、問題発見・解決に向けて地域社会の中で協働できるグローバル人材を育成することを目的としています。教育目標として、「『社会的包摂』の思想を修得する」、「高齢者と子どもについての社会問題について政策得意分野として専門的知見を深める」、「さまざまな地域公共政策の現状と問題点を理解した上で、問題発見・解決の実践的能力を身につける」ことを設定しています。つまり、地域社会に関する様々な理論・政策・地域活動を適切に組み合わせて活用することができることが到達目標です。

そのために必要な知識としては、グローバル化する世界と地域社会の関係の理解、様々な政策や地域の活動を対象とする客観的な分析と評価の理解、対象となる課題群の相互関係の把握と分析ができるよう学んでいきます。その結果、地域社会における特定の計画やプロジェクト策定を主導することができる人材を養成することがこのプログラムの使命です。

育成していくのは、社会問題に向き合う地域住民や地域社会に対して、慈愛の心を持ち続け、社会問題を「私たちの行動で変えられる」という信念を持つ人材です。つまり、地域公共政策の策定、実装の受け手、担い手となる人材であり、他者と協働して貢献するために相手の話を傾聴できることも求められます。また、的確に理解・質問し、自分の意見を相手に分かりやすく表現できることも重要です。スキルとして、ICTリテラシー、統計リテラシーを持ち、基礎的な情報収集・分析能力を持つことが必要となります。内容としてはグローバル要素としての「国際社会の理解」や演習要素としての「ソーシャル・ビジネス演習」「インターンシップ」等を配置して、バランスよく学ぶことができるようプログラムされています。



京都文教大学のみなさんへ

京都文教大学のGPMプログラムの特色

京都文教大学のグローバル人材基本科目は、「コミュニケーション」を独自の専門知識としています。ビジネスの現場は、コミュニケーションそのものです。営業・販売・商品開発・企画提案といったビジネスの様々なシーンでは、自分の考えを主張したり、他者を説得したり、人の心を動かす文章を書いたり、「よく書き、よく語る」ことが必要となります。講義科目と多彩な演習・実習科目を通して、確かな「言葉」を学び、自分の考えを「自分の言葉」で表現し、「コミュニケーション」を大切に使うグローバル人材を目指しましょう。



担当教員からのメッセージ 京都文教大学総合社会学部准教授 黒宮 一太

見渡すかぎりの各所で、いま、「闊達な言葉の交流」が失われてしまっています。このことが、地域の不活発の根本にあります。だからこそ、本資格の修得を目指すみなさんには、教室で、また、実習で赴く先々で、教員との、また企業の方たちとの、紋切り型の語辞による「単なるおしゃべり」ではない「真剣な言葉のやりとり」を繰り広げてもらいたいと思っています。それがいかに面白く大事であるかを、「(人と人との交際の) 実践」にほかならない大学の授業をととして、自らで知ってください。

特色ある科目：エクスターンシップ実習

本実習は、インターンシップとは異なり、企業が実際に抱えている課題（商品開発など）にたいして学生がチームを組んで解決策を提案していくことを目標にしています。

受講生は、実際に企業に赴き、現場のプロによる厳しい評価に向き合いながら、「仕事」にたいする責任意識を養うことができます。また、チームでの協働の困難さを学ぶことができます。



連携大学によるGPMプログラム



■佛教大学のみなさんへ

GPM資格は、グローバルな視点で物事を考える能力と、地域経済・地域社会の持続的発展を支える公共マインドを兼ね備えた人材に与えられる職能資格です。佛教大学では、これからの地域社会や地域企業が抱える課題を解決する上で、多様性・ダイバーシティが重要になってくると考えます。それは、今後の地域も企業も、性・国籍・習慣・言語など、今まで以上に多様な背景を持った人々によって構成されていくと見ているからです。そこで、本学のGPMプログラムは、異文化理解・コミュニケーションの学習に力点を置き、構成しています。本プログラムは社会学部学生が中心に受講していますが、社会学部以外の学部生も受講可能です。

佛教大学のGPMプログラムの特色

異文化理解・コミュニケーションを中心に講義科目を受講し、基礎的な知識を修得します。並行して「プロジェクト演習」(2年生春学期)を通じて、参加型講義の経験を積みコミュニケーション能力を磨きます。その上で、大学に企業人をお招きして京都の産業や地域企業とグローバル化の関わりを学ぶ「京都の産業」(2年生秋学期)を受講し、企業の考え方に直接触れることで、自分たちとは社会的背景が異なる社会集団を理解する経験を重ねます。これら一連のプログラムの履修を経て、京都の企業などと連携して運用するPBL科目「グローバル人材PBL」(3年生春・秋学期)を受講することにより、本学のGPM資格に相応しい総合的な能力(グローバルな視点で物事を見る、公共マインドを持って地域と接する、異なる文化や背景を持つ人々とコミュニケーションする)を養います。

特色ある科目:PBL科目「グローバル人材PBL」

この科目は佛教大学のGPMプログラムの仕上げの段階として、理論とフィールドワークやインターンシップでの学びを関連させることで連携している企業や地域の課題を解決するための具体的に実現可能な提案を行い、卒業後に社会で活躍できる能力を身につけます。

現在、京都の伝統産業と連携して京人形など日本文化を京都から海外に広げる課題に取り組むクラス、京都のコミュニティラジオ局と連携しラジオ番組の制作を通して地域と大学の連携を促進する課題に取り組むクラス、京都の地方自治体と連携しジェンダー平等な社会を実現するための課題に取り組むクラスを開講し、それぞれの課題に対する魅力的な具体的提案を考えます。



■龍谷大学のみなさんへ

龍谷大学のGPMプログラムの特色

龍谷大学では、課題解決型科目を階層的に配置し、地域社会を支える公共マインド＆グローバルなビジネスマインドを修得することを目指します。

担当教員紹介

高畑 重勝
龍谷大学政策学部教授
主な担当科目:「グローバル戦略実践演習」



中森 孝文
龍谷大学政策学部教授
主な担当科目:「キャリアデザインのための企業研究」「企業のCSR実践演習」



特色ある科目

①地域・企業連携型 Active Learning

コミュニケーション・ワークショップ演習

2年次前期 政策学部生全員が履修します。グループで意見交換しながら合意形成に到達する体験を通して、「他者と協力して課題の達成ができる力」の修得をめざします。さらに、中小企業家同友会様と連携した企業インタビューや、卒業した社会人OBOGの方へのインタビュー結果をスライドショーに仕上げて発表します。

キャリアデザインのための企業研究

2年次後期 企業訪問を通じて、企業の無形の強みについて考察し、それらを活かすためにはどのようなキャリアデザイン形成が必要なのかについて考える科目です。発表会では企業の方に学生の提案を聞いていただき、コメントをいただきます。

企業のCSR実践演習

3年次前期 企業のCSR活動の意義を理解し、社会の持続的発展に貢献できる人材育成をめざします。講演・企業訪問を通し課題を発見・分析し新たな提案をします。発表会では企業の方に学生の提案を聞いていただき、コメントをいただきます。

②企業のグローバル展開を支える人材育成をめざす PBL

グローバル戦略実践演習

3年次後期 中小企業が海外進出する際に直面する多様な課題について考察することにより、企業のグローバル展開に対応できる人材育成をめざします。グループでの企業への訪問調査、支援する関係団体・金融機関へのヒアリング等から課題を抽出し解決のための提案をグループで作成し発表するPBL形式の授業です。

③欧州・アジアの大学との協働PBL

政策実践・探究演習(海外)

フィンランドや台湾など、海外の大学と協働でPBLを実施し、グローバルな観点から持続型社会を構築するための能力の獲得を目指します。

グローバル人材 PBL

課題解決型学習; Project Based Learning

「グローバル人材PBL」は、3年次配当科目です。学習者複数名で構成されるチームにより、「グローバル人材基本科目」で学んできたことを活かし、課題解決に取り組む実践的な科目であり、大学あるいはグローバルセンターにより実施されます。「グローバル人材PBL」を受講できる学生は、「グローバル人材基本科目」を原則3科目以上履修し、面談の上決定します。



「グローバル人材PBLの流れ(一例)」

コマ	講義場所	内 容
1	学 内	担当教員による授業方針とプロジェクトについての説明。
2	学 内	課題(プロジェクト)提供の企業紹介およびチーム分けやグループディスカッション等
3	学内または企業訪問	企業より現状と課題についてのレクチャー
4	調査現場または学内	調査・分析・ディスカッション等
5	調査現場または学内	調査・分析・ディスカッション等
6	学 内	グループ間の進捗および情報共有
7	学 内	各グループにて中間プレゼンテーション準備
8	学 内	中間プレゼンテーション内容の共有・検討
9	企業訪問	企業に向けての中間プレゼンテーション
10	学 内	企業からのコメントを受けての課題修正
11	調査現場または学内	追加調査・分析・ディスカッション等
12	学 内	各グループにて最終プレゼンテーション準備
13	学 内	最終プレゼンテーション内容の共有・検討
14	企業訪問	企業に向けての最終プレゼンテーション
15	学 内	振り返り

※最終成果報告として連携5大学が共催する成果報告会「グローバル人材フォーラム」などにおいて学生グループが発表(パワーポイント発表・パネル発表)を行います。

GPMへの期待の声

京都商工会議所 会員部長 柴 隆利 氏

少子高齢化やグローバル化、デジタル化の進展に伴い、日本の社会構造は大きく変化しています。地方創生が求められる時代において、多様な社会課題の解決を通じて、地域経済が持続的に発展していくためには、未来を自ら切り拓く人財の育成が重要です。GPMは、まさに理論に裏打ちされた実践力を養う教育プログラムであり、多くの学生の皆様が資格取得を通して、自身の可能性を広げ、社会にはばたく期会になりますことを期待しています。



一般社団法人京都経営者協会 専務理事 上田 清和 氏

デジタル技術による産業構造の変革や、深刻化する環境問題、地政学的リスクの高まりなど、グローバル競争の中で企業を取り巻く経営環境は急速に変化しています。一方で、急速な人口減少とそれに伴う労働力不足に対応するためには、「多様な人材」の労働参加率向上による「量」の確保と、働き手の能力開発・スキルアップ等による「質」の向上の両面からの対応が必要といわれています。企業がグローバル競争の中で、競争力を伸ばし、事業を安定的・持続的に進めていくには、働き手によるイノベーション創出が不可欠となります。それが付加価値の最大化や生産性の向上に繋がります。大学で学んだ知識を知恵に変える力を持ったGPM資格取得者には、企業でのイノベーション創出にきっと貢献してくれると大いに期待をしています。



一般社団法人京都経済同友会 理事 事務局長 下間 健之 氏

京都は、世界とつながる都市、職業生活を通じて世界の一員であることを実感できる街です。京都には人々の暮らしを豊かにし、国内外で独特の存在感をもつ企業が多数集積し、これからの企業活動を支える担い手を求めています。大学のまち京都を代表する5大学と、こうした京都の企業や経済界が、がっちりと連携して提供する「グローバル人材資格制度」をぜひ活用され、京都に学び、暮らし、遊び、憩い、そして、自分の持ち場である仕事を通じて世界に貢献するご自身の道を見い出していけることを期待しています。



公益社団法人京都工業会 理事 事務局長 西岡 誠司 氏

京都には伝統と革新が調和する環境があります。モノづくりの視点でみると、伝統産業から最先端産業まで幅広い業種の企業が地域に根差し、多くは独自性の高い技術等の強みを持って活躍していますが、その根幹を成すのは多様な人材です。国内外から多くの学生が集まる京都で、学生同士また社会人との様々な交流を通して、地域社会を大切にしながらグローバルな視野で思考する素地を育み、未来に向けた変革のリーダーとしての基礎を培われることを期待しています。



一般社団法人京都中小企業家同友会 理事 事務局長 田島 慎也 氏

地域経済・地域社会の持続的発展に向けて、次代を切り拓く人財を産官学（オール京都）で連携して育成するGPM資格プログラムの更なる発展は、京都にとどまらず多くの地域経済・地域社会の発展にとってとても重要なことだと考えます。これまでにない変化の激しい時代を迎えて、変化に対応し次代を切り拓いていく人財が今ほど求められるときはないと考えます。京都で学ぶ学生皆さんが「何のために生き、何のために学ぶのか」を自らに問い、地域社会の様々な現場で活躍でき、実践力が身につく本プログラムの授業やプロジェクトに大いに期待を寄せています。



京都はグローバルな街である一方、京都で学んだ学生がその後も京都に留まる割合は二割程度と低く、京都企業は優秀な人材確保に苦心している、というのが現状です。大学と企業を結んで行うインターンシップ等は盛んに行われていますが、大学の専門科目のもつ専門性や学問性を十分に活かした形になっているとは言い難いのです。

われわれ6大学は、京都の経済団体や行政、NPO法人「グローバル人材開発センター」とともに、科目設計段階から産業界と大学が協働する仕組みを設け、『グローバル人材資格制度』を創設しました。多くの学生がチャレンジし、取得してくれることを願っています。

GPM取得者の声

■GPM 京都産業大学卒業生(2017年度資格取得) 特定非営利活動法人グローバル人材開発センタースタッフ／個人事業主 木下 京介 さん

GPM資格の取得を通して、様々な意見、考え、物のとらえ方にふれることができ、そのどれもが、自分を成長させてくれた本当に素晴らしいものでした。個人の認識の外側にある、他人の認識に触れることは難しく、すべてを理解することは出来ませんが、個人が求める答えの全てがそこにあるような気がします。「グローバルな視点で物事を捉え、ローカルの本来価値を見出す」とは、自分の認識を飛び越え、受け入れることから始まるのではないのでしょうか。



■GPM 京都文教大学卒業生(2021年度資格取得) ひとやすみ事務所(自営業) 渡邊 百恵 さん

GPM資格を取得しようと思ったのは、「マネジャー」と最後につく資格を取ることが今後あるのかな？と、何となく思ったことがきっかけでした。資格を取得する中で一番印象に残っていることは、小さな組織（中小企業）で働いた方が楽しそうっていう気持ちが芽生えたことです。私は中小企業家同友会とのプロジェクトに参加したのですが、「中小企業のアットホームさ」「社長も人間だよ」ということをダイレクトに感じられて、それが自分の進路選択にも影響したと思います（結局、自営業という選択につながりました！）



■GPM 佛教大学卒業生(2019年度資格取得) 京都中央信用金庫に就職後、家業の辻井商店へ転職 開本 桃架 さん

GPM取得のためのグループワークや外部での取り組みを通して、発言力や与えられた課題について自ら考える力がつきました。外部でのイベント参加もあり、地域の方との関わりも増えるので、コミュニケーション能力が上がり、就職活動での面接やグループワークでは自信を持って臨むことができました。GPM取得のための取り組みはグループワークがほとんどだったので、就職後も周りとのコミュニケーションや、自ら提案するために考えることを楽しむことができている。授業と並行して行うのでとても大変でしたが、就職活動を経験し社会人になってみて、GPM取得のための取り組みは学生のうちに経験して良かったと思います。



■GPM 龍谷大学卒業生(2021年度資格取得) 一般社団法人京都中小企業家同友会 事務局長 栗原 萌乃香 さん

GPM取得のための科目には、他の学生や外部の方々とともに協働する演習が含まれます。一見、大変そうだと感じるかもしれませんが、自分とは意見の異なる仲間や、視点の異なる外部の方々とのコミュニケーション、また、実際に自分の目で見て感じることによって気付き学ぶことはとても多くあります。私も、現在仕事で様々な方々と関わる中で、その経験が活きていると感じています。また、「グローバル」も「ローカル」も混在している京都だからこそ、その点にも改めて目を向ける機会になるのではないのでしょうか。是非プロセスを大切に、この機会を自身の学びにしていただければと思います。



NPO法人グローバル人材開発センター

グローバルセンター（略称）は、京都の産学公民が協力して進めている「グローバル人材」育成事業のプラットフォームとなるNPO法人です。グローバル人材育成に関わる科目・資格・セミナー・教育手法等の開発支援、コーディネート全般を行っています。また、就活、採用支援として学生と企業の対話型マッチングを進めています。大学界の他、京都商工会議所、一般社団法人京都経営者協会、一般社団法人京都経済同友会、公益社団法人京都工業会、一般社団法人京都中小企業家同友会、京都府、京都市、一般財団法人地域公共人材開発機構と連携・協働しています。また、京都の学生にとっての日常的な活動拠点であり産学公民の連携拠点となる「Students Lab」の学生コミュニティを運営しています。

当センターにて開発・運用しているアクティブ・ラーニング・PBL（Project Based Learning：課題解決型学習）におけるプロジェクト活動では、学生グループが様々な企業課題・地域課題に対し、実践的活動（グループワーク、各種調査・分析、企業訪問・フィールドワーク、プレゼンテーション等）を通じて主体的に取り組んでいます。当センターでは、参加する学生を随時募集しています。センターのホームページを参照ください。



GLOBAL
Global Human Resources Development Center

GPM
GLOBAL PROJECT MANAGER